

経済・経営

keyword

- 技術マネジメント
- 中小企業
- 環境経営



弘中 史子
Chikako Hironaka

経済学部
教授

【プロフィール】

●**略歴**

- ・1996年 名古屋大学 経済学研究科 単位取得
- ・1997年 滋賀大学 経済学部 講師
- ・1999年 同 助教授
- ・2007年 同 准教授
- ・2009年 同 教授

【主な社会的活動】

●**主な所属学会**

- ・日本中小企業学会 理事
- ・日本情報経営学会 理事
- ・日本経営学会
- ・マレーシア・テナガ・ナショナル大学客員教授

【代表的な研究テーマ】

- 中小企業の技術マネジメント
- 中小製造業のグローバル化

課題解決に役立つシーズの説明

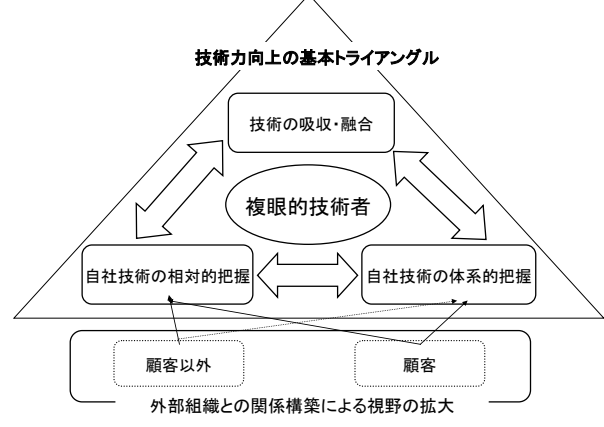
中小製造業のグローバル化に関する研究

近年、中小企業のグローバル化が急速に進展しており、海外生産拠点設立も増加の一途をたどっている。しかしかたに生産拠点を立ち上げるのか、現地社員・駐在者をどのように育成していくのか、どのように生産現場の技術を高めていくのかなど、課題は尽きない。また海外生産拠点を持続的に成長させていくためには、現地での顧客・市場開拓にも取り組んでいく必要がある。経営資源に制約のある中小企業がこうした課題にどのように対応していくのかについて、マレーシアでの在外研究の研究もふまえ、ASEAN・東アジアを主たる対象として研究している。

中小企業における技術マネジメントの研究

日本の中小企業、なかでも金属・機械産業を対象にその技術マネジメントのありかたを研究している。日本の金属・機械産業は、高度経済成長を通じて飛躍的な成長を遂げた。さらに二度にわたるオイルショックやバブル経済の崩壊、世界金融危機を乗り越えて、現在にいたるまで国際競争力を維持している。そしてそこには多くの中小企業が存立し、産業を支えている。

こうした中小企業がいかんして技術力を向上させるのかについて、1)「複眼的技術者」、2)「自社技術の体系的把握」、3)「自社技術の相対的把握」、4)「技術の吸収・融合」、5)「外部組織との関係構築による視野の拡大」という5つの要因を中心に探っている。また、中小企業がいかんしてこれら5つの要因を社内にとりこみ、相互に関連させることができるのかについて、実態調査もまじえながら研究を進めている。



<主要業績>

- ◆Chikako Hironaka (2017) The Challenge of Cross-Cultural Management: Organisational Factors of Japanese Small And Medium Sized Manufacturers in Malaysia The 5th Asian SME Conference Proceedings, pp.01-10.
- ◆山田和代・弘中史子(2017)日系中小企業のベトナムでの事業展開—雇用制度と技能修得, 彦根論叢 415号, pp.160-174
- ◆Chikako Hironaka, Zariyawati Mohd AshhariDiana and Rose Faizal (2017) A Comparative Study on Development of Small and Medium Enterprises (SMEs) in Japan and Malaysia Saudi Journal of Business and Management Studies, Vol.2(4), pp.357-374
- ◆弘中史子(2017) 中小企業と技術力向上—社内パワーと社外パワーの活用—, ひょうご経済, 第137号, pp.2-5
- ◆寺澤朝子・弘中史子(2017) 中小企業のグローバル化と組織的対応—マレーシアでの海外生産を事例として— 経営学論集, 第87号, pp.(07)01-(07)08T
- ◆弘中 史子(2007)『中小企業の技術マネジメント』中央経済社

企業・自治体へのメッセージ

研究を通して、日本経済を支える中小製造業を応援したいと考えております。